日吉台新聞

HIYOSHIDAI

発行
日吉台学区
まちづくりカンパニー

発行責任者
林　堅太郎

編集責任者
野々口　義信

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

学区ホームページ

学区運動会、ラジオ体操も中止

学区３大イベント２年連続で開催できず

コロナ影響深刻

学区自治連合会は6月19日の役員会で、今年の学区民大運動会について、学区スポーツ振興会の「新型コロナ感染問題で、中止せざるを得ないのではないか」との提言を受け、中止することを決めた。学区自治連合会は先月の役員会で、今年の夏まつり、文化祭の中止を決めていて、コロナの影響で学区の3大イベントは2年連続で開催できないことになった。

学区スポーツ振興会によると、新型コロナ感染症の拡大が収まる気配を見せない。ワクチン接種も行き渡らず状況の好転を大きく望めないなか中止せざるを得ないのではないか、と学区自治連合会に提言した。

また、日吉台青少年育成学区民会議の夢・未来事業推進委員会も6月1日、日吉台市民センターで委員会を開き、依然収束の見込みがたたない新型コロナウイルスについての対応について協議、感染症のリスクを回避するため、日吉台小グラウンドで開く恒例の夏休みラジオ体操を2年連続で中止することを決めた。

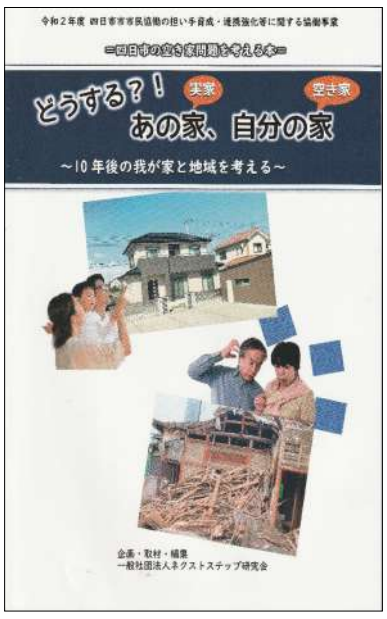
学区の空き家対策、紹介

四日市市のスタッフからインタビューを受ける学区空き家対策委のメンバー

三重・四日市市の冊子、紹介動画に登場

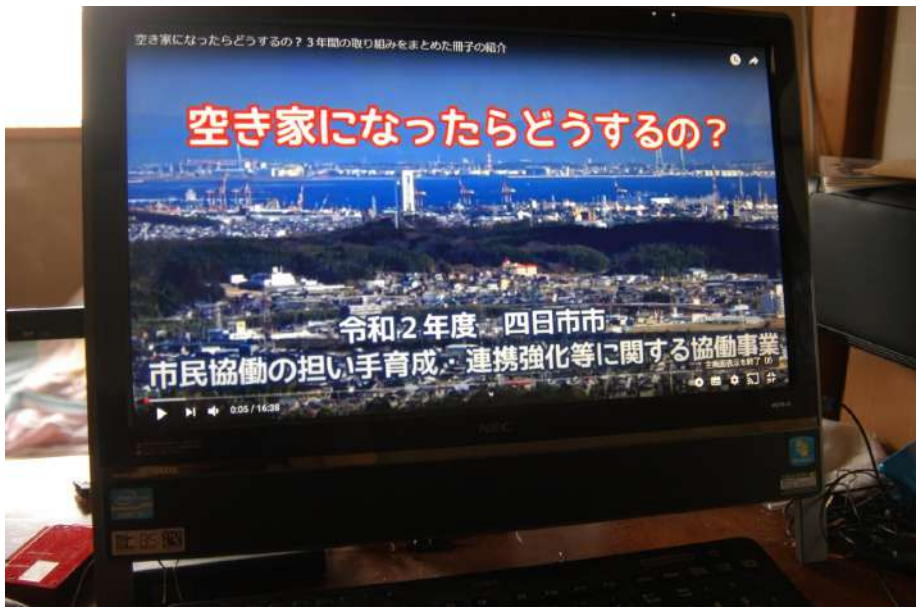
活動ぶり、先進地事例として

学区で行う空き家対策の活動ぶりが、三重県四日市市の空き家対策の取り組みをまとめた冊子



日吉台学区の活動ぶりが紹介されている四日市市の空き家対策の取組みをまとめた冊子

「四日市の空き家問題を考える本・どうする？！あの家、自分の家」と動画「空き家になったらどうするの？」に取り上げられ、紹介されている。２０１６年に活動を始めた日吉台学区の空き家対策。今はコロナ禍で動きが止まっているが、一時は全国各地の自治体からの学区に視察が相次ぎ、多くの自治体で先進地事例として参考にされている。この四日市市の紹介冊子動画は学区のホームページにアップされている。



四日市市の対策を紹介する動画のタイトル場面

四日市市の対策を紹介する動画のタイトル場面

四日市市は、複数の部局にまたがる地域の諸課題について、市民協働促進計画に基づき、部局の壁を乗り越えさまざまな事業を展開、空き家問題もこの事業のひとつとして取り組む。冊子と動画は、地域住民が、空き家問題解決に向かう手引きとして同市のコンサルタント「一般社団法人ネクストステップ研究会」（寺田卓二代表）と協働で作成した。

冊子「四日市の空き家問題を考える本」は、A４判52ページ。「今なぜ空き家問題なのか」「空き家問題 何が問題、どんな問題」「先進事例に学ぶ」「四日市市の空き家対策の現状」「私たちからの提言」の５章からなり、空き家の問題の現状や課題、具体的な取り組みをしている先進地事例などを取り上げ、同市の市民活動団体などから寄せられた貴重な提言も紹介している。

紹介動画は、冊子「空き家を考える本」のWEB版。ユーチューブで配信しており、収録時間は約16分。

考える本では、対策の先進地事例として愛知県半田市亀崎町の亀崎まちおこしの会とともに日吉台学区の空き家対策委員会の活動ぶりを詳しく載せている。日吉台の現状、大規模住宅地としての空き家対策の取り組みのきっかけ、実際の活動内容などがまとめられている。動画では、「なぜ今活動するのか」「将来の心配は」「今後の課題は」「広報活動の手ごたえは」「一人一人ができることは」などについて濱崎博・学区空き家対策委員会事務局長ら同委役員４人が、四日市市スタッフらのインタビューに応じ、空き家対策にかける思いを熱く語っている。

冊子掲載や動画収録には昨年秋、コンサルスタッフが日吉台を訪れ取材、動画インタビューしたほか、濱崎事務局長が四日市市にでかけ講演などを行った。

アジサイの名所に

多目的広場

約300株咲きそろう

日吉台グラウンドゴルフクラブ会員らが植栽

日吉台住宅地の入り口、日吉台グラウンドゴルフクラブ（北海彰会長）が、グラウンドゴルフ練習場に使う日吉台1丁目の日吉台多目的広場のアジサイ。同ゴルフクラブの会員らが多目的広場境界ののり面にアジサイを植栽して3年、会員らの丹精込めた世話が実って今見ごろを迎えている。

同広場を取り囲む北側と東側のり面は長年、雑草が生え放題となっていて日吉台住宅地の玄関口の美観を損ねていた。グラウンドゴルフ練習に通うち、見かねたメンバーらが、荒れ放題になっているのり面にアジサイを植えることを提案、家庭でアジサイ苗を育てたうえ、除草などをしてのり面を整備、3年がかりでアジサイを植え付けた。

この間、メンバー有志らが中心になって高橋川流域緑地愛護会（北海彰会長）を組織、定期的に栽培管理を続け、今では300株ほどのアジサイ園になり、薄紫やピンク、白など色とりどりの花を咲かせ見ごろを迎えている＝写真。

同会では将来、南側斜面、東敷地にもアジサイを植栽、湖西地方のアジサイの名所にしようと張り切っている。

ひよサポ☆ボランティア募る

子どもたちの学習活動等、支援

日吉台小

学区住民や児童の父母らの協力で子どもたちの学習支援や活動を支える日吉台小の「ひよサポ☆ボランティア」。日吉台学校運営協議会と日吉台小が同小コミュニティスクール事業として始めて3年になる「地域で子どもを育てる」事業。同小と日吉台小学校運営協議会（野々口義信委員長）は、住民の隙間時間で子どもたちを支援する「ひよサポ☆ボランティア」の参加者を募っている。

「ひよサポ☆ボランティア」の活動は「児童教育活動支援」▽「読書環境の整備等」▽「学校行事等の支援」▽「マナ☆ビバの支援」の4種。

児童教育活動の支援は、子どもたちのミシン操作や裁縫の学習活動の補助や音読発表、掛け算の九九練習の聞き手の学習支援、調理実習の支援、公共交通機関を利用した校外学習の引率支援。

読書環境の整備は、お勧め読書本の紹介、返却された図書を正しい場所に戻す図書整理、傷んだ本の修理や図書委員児童の補助など。

行事等の支援は、入学式、卒業式、運動会の準備など。

マナ☆ビバの支援は、冒険☆アソビバ、学校で泊まろう寺子屋プロジェクトの応援作業など。

このボランティア事業は、2018年度に同小コミュニティスクール事業としてスタートして今年度で3年目。昨年は、学区住民、同小父母ら32人がボランティア登録。掛け算の九九練習の聞き手、校外学習の引率、ミシン操作の補助指導でナップザック造りのお手伝いをした。

同小では、ボランティア参加希望者は登録制とし支援が必要な場合に学校から出動依頼がある。登録希望、問い合わせは同小（579・5033）。

コミュニティスクールは、保護者、地域、学校が一緒にどのような子どもに育てたいか、何を実現したらよいのか、など目標やビジョン、考えを地域と学校が共有、これらの目標を実現、活動をするための検討の場「学校運営協議会」を設置した学校がコミュニティスクール。2017年度、日吉台小と真野北小の2校が大津市内小学校として市教委から最初のコミュニティスクール指定を受け活動開始、その後市内各校に拡大しているをしている。

ミシン操作の支援をするひよサポ☆ボランティア

子鹿などの迷い込み相次ぐ

高橋川上流部

望まれる対策

先月中旬、子鹿が迷い込んだ学区内を流れる高橋川上流部河川敷に6月16日夕、また子鹿が居るのを日吉台小に通う児童が見つけた。通報で3丁目西自主防災会（岸本善春会長）の会員らが出て、1時間がかりで救出、近くの山へ放した。

現場の高橋川上流部は、北側と西側からの流れが一緒になる合流点部分。両サイドがコンクリート擁壁に囲まれ、上流部は、北側、西側とも高さ1㍍ほどのコンクリート製の段差があり、この付近の河川敷に迷い込んだ子鹿などは自力脱出することは不可能。例年、子鹿やイノシシのウリ坊の迷い込みが数件あり、その都度救出劇が演じられている。河川敷の工事は、ハードルは高いが、迷い込み防止を図るため、何らかの対策が望まれる。（**高橋川に迷い込んだ子鹿**）

学区社会福祉協議会

生活支援物資の提供を

日吉台市民センターで受け付け

日吉台学区社会福祉協議会（呉屋之保会長）は、学区住民に対し、大津市社会福祉協議会の依頼を受け、市内の生活困窮者を援助する「生活支援物資提供」協力呼び掛けをしている。

昨年来の新型コロナウイルスによる影響で、市社協へ休業、失業などによる生活困窮相談が通常時の100倍越え、この中には経済的な理由で食事が満足にとれない人、子どもたちにお菓子などが与えられていない、と訴えるお母さんもみられるという。

生活支援物資提供を求めているのは、缶詰類、カレー、パックライス等のレトルト食品類、即席めん、カップめん、のり、ふりかけ、うどん、そば、スパゲッティ等の乾麺など。

日吉台市民センターロビーに支援品受け付け箱を設置しているので各自届ける。市民センターまで持参できない人は、日吉台ささえあいの会（080・1459・7026）へ電話をすれば学区社協の担当者が受け取りに出向くことになっている。

寄せられた支援物資は、大津市社協を通じ市内で貧困対策に取り組む団体等を通じ届ける。